

平成 24 年 10 月 5 日
都市整備局西風新都整備部

第 1 回 ひろしま西風新都の都市づくり懇談会 追加意見・助言

提出者： 県立広島大学 保健福祉学部 教授 間野 博 P1

提出者： 伴東学区社会福祉協議会 副会長 國田晃司 P2~3

提出者： 沼田町伴学区町内会連合会 会長 秋野征治 P4~9

提出者： 石内地区連合町内会 会長 山崎正志 P10~11

第 1 回 ひろしま西風新都の都市づくり懇談会

追加意見・助言提出表

【 提出者： 間 野 博 】

No.	項 目	意見・助言
1	H20.2 の見直しプランの 総括の提示	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の「見直しの観点」からすると、今回は方向転換したと思います。 ・ そのことをはっきりさせることで今回の方向付けがはっきりします。
2	新しいコンセプトを	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「市政推進の基本コンセプト」にあるように、これからは「集約型都市構造の形成」です。 都心以外の地域では「地域ごとの特性や将来性等を踏まえつつ、既集積した機能のうち、活かすべきものを選択し、強化」というスタンスが必要です。「選択と集中」です。 ・ その観点から西風新都の「新しいコンセプト」を打ち出す必要があります。
3	産業の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「市政推進の基本コンセプト」で西風新都が登場するのは「活力にあふれ賑わいのあるまち」の「産業の振興」の部分です。ここに市長の思いが出ていると思います。 ・ 従って、産業振興に西風新都がどう貢献するかを打ち出すことが必要です。経済観光局の考えはどうなっているのでしょうか？
4	「新都」の意味の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当初は広島都市圏の拡大を想定し、その中での活用のあり方を考えたものと思いますが、もう拡大は考えられないのですから、新たに広島市全体の中で西風新都が負うべき役割は何かを明確にする必要があります。 ・ その一つが「防災」かも知れません。これも、消防局の考えを出してもらう必要があります。 ・ 民間を誘導と言ってもなんでもどんどんということはありません。
5	「新都」と「旧都」の比較	<ul style="list-style-type: none"> ・ 西風新都のサステナビリティは「旧都」に無い良さを強化することにかかっています。 ・ 懇談会で出ていた「自然」「大学」もその一つでしょう。
以上の点を踏まえて「見直しのねらい」の見直しと「新コンセプト」の案を検討していただきたい。		

平成 24 年 8 月 7 日

第 1 回ひろしま西風新都の都市づくり懇談会
追加意見、助言

伴地区コミュニティ推進協議会
伴東学区社協 國田晃司

(伴東地区の提案)

1、西風新都東部、玄関口の確立の提案

伴東地区は西風新都東部の玄関です、また山陽高速道の沼田 P A もあり、スマート I C を儲け、高速道よりの西風新都東部の玄関に位置づける。また沼田 P A はバス停もあり、九州や山陰そして東京へと東西、北部のバスが留まり、そこから、西風新都内の東西南北行きのバスターミナルの設置も可能になる、また P A での地域おこしでの特産物の販売も考えられる。その上 P A 隣接の山地の拡大も計りアウトレットなどの建設も地区民は夢見る。

2、伴東保留地に防災、環境エネルギー考慮の次世代の町の位置付けの提案

沼田 P A の西部に広がる、伴東保留地として扱われている地区の構想ですが、保留地の東にそびえる火山(神武日本初代天皇烽火説の山)の緑あふれる自然を愛し、その火山より流れる清らかな水を大切にしながら、その麓に広がる丘陵地に、防災施設と、新時代のエコ電力網スマートグリッドを合わせた「スマートシティ」への構想に位置づける。勿論、近くにスマート I C があることで高速道との連結により広域防災の拡充にもつながります。当然、保留地内に計画中の外環状線と市道(通称;農免道拡幅)の早期整備推進もします。出来れば中四国地区のモデルとして特区地域としての開発も良いのでは。

位置付けの理由としては、①4号線より広島中心部よりもっとも近い地区、②近い将来の道州制をねらんでの構想 ③震災による大都市での災害の教訓(地方への分散の必要性など)等を考慮しての構想

また、現在ある沼田高校と隣接地区にある広島市立大学との連携を密にし、学びの地区として生涯教育の地としても位置づける。次にこの地区と祇園の山本地区春日野台の距離は 1 キロもないのでその間を結ぶ道路を新設し祇園地区との連結を計る。

3、平地の開発整備の提案

① 安川側道改良による憩いの場の整備

伴地区の平地部は南と北部の山に囲まれ、その中心部に安川が流れている。安川の側道を整備し、憩いの場所と位置づける。その理由は朝夕問わず、ウォーキングやランニングをする方が年々増えている。そして安川を流れる水の音や

川沿いに吹く西風はとてもさわやかで心癒される。また川には鯉やはやなど多くの魚が、生殖し、それに最近ではさんしょう魚も見られる、その上、初夏の夜には、蛍の大群も見られるようになった。最高の憩いの場所です。

また、歴史的（古代）にも安川の南側を、都と九州大宰府を結ぶ幹線道路、古代山陽道ルートとしてロマン伝説があり、歴史的背景を考慮し「古代山陽ロード」とも名づけコミュニティロード的憩いの場として位置づける

② 町並みの整備

安川を中心に両側の平地部は昔の農村のままで乱開発が進み、住宅と農地が散乱としており、その上道路も狭いため、町が整然としていない。東西の道路（横断）はアストラムライン通り、安川通り、通称農免道（市道）が走り、比較的整備されているが、特に南（大原台、松宗、下向地区）と安川を挟んで、北（下地、瀬戸内ハイツ地区）の丘陵地を結ぶ道路（縦断）は極めて粗末で安川にある橋も道路がクランク状に曲がりくねった状況で大変不便である。

（改良案）

- ア、 南、北を結ぶ（縦断）幹線道路網の整備及び橋の架け替え、またこの地区には高校や病院もあり、道路には自転車や電動車椅子が安心して通れる道路を付設するなど新設及び拡幅。
- イ、 同時に電柱を無くし、電線の地中化(町並みの美観)を考慮しながら、住宅、事業地と農地のバランスよい町並みを計る。

4、 伴東地区北側丘陵地区（瀬戸内ハイツ）道路の整備提案

北側丘陵地には多くの団地が存在し、団地より東西の移動は一旦、団地より平地の道路に出て移動しており、団地間の最北部間を結ぶ連絡道の整備を提案します。

5、まちづくりソフト面の意見

地域と企業の共生

これからの時代は地域と企業とは共存共栄を強固にする必要があります。地域も高齢化し企業の手を必要としています。地域は企業発展に積極的に連帯を図り、企業は社会的責任を果たすことです。お互いが「まちづくり」に寄与し、両者の進展することが望ましいと思います。

以上、伴東地区に関する都市づくりの意見、助言提案をさせて頂きましたが、想いだけでは実現できません。行政の指導、協議の上、相互が知恵を出し合い、新しい西風新都の都市づくりに邁進していくことが肝要と思います。宜しくお願ひします。

平成 24 年 8 月 8 日

第 1 回 ひろしま西風新都の都市づくり懇談会

追加意見・助言提出表

伴学区

項 目	意見・助言
1) 都市基盤整備	・道路網の整備（外環状線の早期着工など） ・上下水道の整備 ・総合病院の整備
2) 教育関連施設の整備	・高等教育機関付近への本屋の誘致 ・サッカー専用球場の整備
3) 優良企業の誘致	・雇用機会の確保
4) 農林業振興策の具体化	・果物、花器生産などの推進策
5) 災害予防施設の整備	・予防治山、急傾斜地安全策、河川改良
6) 土地利用計画の明確化と 法整備	・地域を指定し目的以外の利用を認めない
7) 調整区域内の活性化策	・農耕放棄地の活用策
8) 高齢者支援策の確立	・買い物、通院、金融機関等の整備

※ 懇談会の追加意見・助言は平成 24 年 8 月 8 日（水）までに、西風新都整備部まで提出して下さい。

【提出先】

〒730-8586

広島市中区国泰寺町一丁目 6 番 34 号

広島市 都市整備局 西風新都整備部 担当： 脇坂、村上

TEL：082-504-2659 FAX：082-504-2678 E-Mail：seifu-seibi@city.hiroshima.lg.jp

平成24年8月

伴学区

ひろしま西風新都都市づくり全体計画の見直し案について

『伴学区の見直し構想』提案

はじめに

伴学区は、これまで沼田地区の中心地として栄え、おおくの町民の皆さんが伴学区を中心として活動してきました。伴学区もその関係で大きく発展してきましたが、今では町づくりの閉塞感が漂っています。

今回の西風新都見直し構想は、西風新都と命名されて以来何十年ぶりであり当初の構想とは大きく周囲環境変わっています。

よって見直し案では今一度西風新都構想を根底から見直す必要があります。

まず第一に

西風新都構想の地域が地域住民のみなさんに把握されていないという事。

地域住民の多くは、西風新都の地域が大塚地域のみと判断していること。

その地域以外の町民は西風新都地域でないと勘違いし、本気で西風新都構想を考えていない。

以上の事を踏まえ役所は、西風新都地域範囲を期限を切って再度町民に説明すべきである。

次に西風新都のコンセプトである『住み・働き・学び・憩う』を各地域

(石内・大塚、伴南・伴・伴東地区)において実践し独自の町づくり構想を提案すべきである。この構想に基づき伴学区の構想を下記にまとめてみました。

記

伴学区内の町づくり構想の提案

「住み・働き、学ぶ、憩う」の実践構想

1) 住み

- アストラムラインの伴中央駅・大原駅周辺を中心とした町並みの整備
モデル町づくり整備(区画整理)を数カ所に指定新設して近隣地区への町づくりの突破口を開く。(町づくり委員会の設置)

● 幹線道路の整備

- ・ アストラムライン沿いの道路と旧道の整備
- ・ 第3の道路として農免道路の改良と拡幅が急がれます。
範囲は、下向農免道路入り口 ～ 上平木バス停
(高速4号線の近道として現在使用されており朝夕渋滞がひどくなっています。通勤ラッシュ時200台/時の通過があります)
広島市立大学・沼田高校・修道大学と学生が頻繁に利用しているが日本一危険な道路となっています。
- ・ また、沼田パーキングエリアスマートIC新設に伴うことと農免道路東側傾斜地利用に伴い広島市立大学からの外環状線の整備を早急に新設して幹線道路交通量の軽減を図る。
現在外環状線は、久地通り付近の事ばかりクローズアップされ本来の外環状線の起点開発(広島市立大学交差点～)が置き去りになっています。今一度原点に戻り見直しが必要です。計画可能なところから計画を進めるのも手法の一つです。

● インフラの整備

特に調整区域において整備が大変遅れています。道路と同時に開発しないと町づくりが出来ません。伴学区内でどこまで進んでいつまでにどの様になるのかが町民に分り易く説明する必要があります。

2) 働き

- 多くの町民は、西風新都内で働きたい意思を持っているが働く場所が少ない。企業を誘致し雇用の創出を真剣に考える必要がある。雇用を創出することにより、地域で生まれ地域で働き地域の事を本気で考える(町づくり)人々が増える事になります。現状において役所は、どの様な努力をしているか見えてこない。機会損失をおこし多額の税金の無駄使いをしている。
- 地元企業と町内会の共生・協同意識の共有
これから誘致する企業への町内会と企業が相互共生のモデルを確立して企業誘致の応援をする。
企業あつての町内会、町内会のあつての企業と相思相愛の関係を作る。(企業も町づくりに参画)

3) 学ぶ

- 沼田公民館の整備又は建て替え（市は、町民の声を無視している）
現在多くの人（お年寄りから子どもまで）が学び・憩いを実践されていますが公民館内の器具・設備の老朽化と2Fに上がる昇降装置が無い為、多くの方々から苦情が続発しています。早急に対応する必要があります。このような状況だと学ぶ・憩うの意思をそがれ学習に障害が発生する事になります。早急な対応が必要です。
- 図書館の新設及びその代替案
安佐南区の図書館は、安古市に行かなくてはなりません。時間をかけていくには、あまりにも遠い過ぎます。
せめて沼田町内に図書館の新設が必要と思います。沼田公民館に併設して設けるのも一考です。
また暫定処置として広島市立大学の図書館を沼田町民に開放する案はいかがでしょうか？ 町民は公民館しかなく（書物の数が限られている）大変困っています。

4) 憩う

- 大塚川・安川・奥畑川側道を住民が憩う場所に整備
県西部事務所の管理下にあり有効利用し町民がどの様にしたら多くの人が憩う事が出来るか、その方法を町民が計画する。（区間と整備方法の検討）
近隣の場所で気軽に憩いを満喫できる場所の確保
- 農免道路東側丘陵地の有効利用（市内から15分程度で来れる）
 - ・ 山高も低く、山から流れ出る水も澄んでおり広島市立大が北側斜面を広島市安佐南区の野外活動センターの設立（研修施設の新設）その北隣を、代替エネルギー回収地域と位置付けて太陽光発電（メガソーラ）・風力発電のモデル地域とする（見学コースを設立して次世代エネルギー沼田町のセールスポイントを作る）
 - ・ 火山、権現山ー山本 権現山ー茶臼山山岳ルートの見直しと散策ルートの見直しと、伴学区内歴史由来場所の再確認と看板作成・取り付け。（他地区よりアストラムラインで気軽に来てまたアストラムラインで帰れる散策ルートを模索）
- 奥畑川の再整備と休耕田を利用した大型農業体験場の計画
奥畑川溪流を整備してホテルの里と自然魚の繁殖が観察できる地域を新設。
大型素人農業体験農場を新設し大人から子どもまで食育の大切さを

教える。休耕田を利用して（J A広島市と提携し情報を得る）広島近郊に無い感動を与える農業体験場を新設（ワクワクドキドキ感を味わう場所の提供！！）

5) その他

- これから多くの高齢者を抱え伴地区内に総合的に診てもらえる総合病院が無い。早急に安心して行ける総合病院の新設が必要である。
多くの高齢者と高齢者を抱える家族の強い要求あり
- 伴学区内全地域（西風新都の中心部）15町内会を住み・働き・学ぶ・憩う・防災地域の5項目に区分して15町内会の役割をはっきりさせ町民の町づくりに対するモチベーションを高める。
全てのリードは各町内会長としコウディネイとは連合会がとる。
地域を区分指定することにより土地開発業者（残土処理を目的とする業者含む）の侵入を排除できる
現在保留地区の山林には、数社の残土業者等が土地の購入を計画しているとの情報を得ています。
- 防災について
現在広島市は、危機管理センターを含め主要な部署を全て市内の中心部に設置しています。昨年のような未曾有の災害が発生した場合今の体制では、大変危険ですし想定外の事を予想しなくてはなりません。（広島市は、三角州が多く大地震が発生した場合、液状化現象が発生し大惨事になることが想定されます）。
以上の事を踏まえ危機管理センターの中核部署を西風新都地域に移転することを提案いたします。

計画場所は、伴学区内 広島市立大学北部（現在保留地区）

アクセス

- ・広島市中心部から15分の場所
- ・高速五日市ICへ 7～8分
- ・西風新都ICへ 10分

新設環境

- ・地山であり地震に強い
- ・津波には全く影響されない・長大斜面で台風の影響も少ない。
- ・保留地区であり新設が容易である
（山高が低く丘陵地帯であり開発費が安価に出来る）
- ・ヘリポートも地山である為、容易に新設可能であり、
気象環境に左右されなくいつでも出動可能。

●
以上、提案致します。

ひろしま西風新都の都市づくり見直しを機会に

今後、伴学区を5年後・10年後どのような町にして行くのか？

町民のくらしの環境はどのようなになるのか？どのようなにするのか？

伴学区として大きなビジョン（指針）を設定する必要があると思います。（町づくり委員会の設置等）

以上

平成 24 年 8 月 8 日

第 1 回ひろしま西風新都の都市づくり懇談会
追加意見、助言

○ 懇談会での発言で足りない所を追加し整理しましたので、追加意見・助言として提出します。

1. 見直しの狙いとか、視点、方向性といったようなものはこれで良いと思う。

現状認識については仕事柄いろいろな都市に行き「まち」を見ていますが最近
は特に四国四県、岡山、山口、九州の方にも行ったが、西風新都の位置づけにつ
いて、開発から 20 数年経っている現状においてこういったことを言っは失礼
かもしれないが、特に交通アクセスについてお粗末な「まち」である。

企業側から見ても、西風新都に進出して企業活動をしようという視点には、な
かなか事業経営者に聞いても魅力に乏しいという声を聞いている。

第一の課題はアストラムラインが途中で止まっており循環型に成っていない
ため南北（安佐南区沼田町の伴、大塚地区と佐伯区、廿日市市、大竹市、岩国市
間など）の人の流れが寸断されている。人の流れを呼び込むことが喫緊の課題で
その意味でも利用者数増と沿線の活性化が期待できる石内地区経由 J R 五日市
駅への佐伯区線の優先整備を提案したい。

第二は道路についても中筋、沼田線や草津、沼田線の伴中央、大塚交差点や五
月が丘交差点では朝夕、土曜、日曜や広域公園でのイベント開催時の交通渋滞の
解消が課題である。

計画の外環状線、内環状線にしろ、全て止まっていてまちが起動していない。

都市高速として高速 4 号線と山陽自動車道の直結も他都市の実態を見ても整
備が必要と思う。

それから話はずれるが、広域公園のビッグアーチにしても、もっともっと全国
的に、あるいは世界的な規模のイベントを誘致し人を呼ぶべきである。

そうするためには、先程言ったような交通アクセスの整備が先決と思われる。

ネットワーク強化のための投資効果のある優先順位を付けた環状線の道路整
備は実現するのみだと思っている。

今日もお越しになっている県の方や国の力を借りて、早く実行に移す段階に来て
いると思う。

2. 修道大学の古屋敷さんから、遊ぶ、憩う場所が少ないというような話があつた
が、これからの企業誘致にあたって、外資系を含めたレジャー産業とかサービス
産業、例えば宮崎が誘致したセガとか、あるいはカジノとかといったものを一つ
の選択肢で検討してみたらどうかという事と同時に情報通信産業、医療産業など
の今後に期待される有望な産業を誘致したらどうかと思う。

今はデフレの大不況の時代だから簡単に企業さん出てきてくださいというお

願いをしても、なかなか来てくれない。

これは、西風新都が誘致の説明会をしているだけではなくて、どこの区市町村もそれぞれの団地を造って、企業の誘致活動を積極的に展開しているので、そういう意味でも是非、アプローチする誘致企業の選定や税と補助制度など魅力ある視点からも検討したらどうか。

それともう一点は、今回の見直しの方向性の中に、先ほど堀崎さんが言われたけれども、護るといった防災の視点を入れられたのは非常に良いと思う。

私も石内地区の自主防災会連合会の会長をさせて頂いているが、いろいろ勉強する中で、広島県防災会議が発表したデータによると、五日市断層、これは活断層で安佐北区久地から西風新都のこころ団地を通して県が指定している神原のしだれ桜を通して藤の木団地、彩が丘団地、植物公園、最終的には廿日市市阿品までの約20kmあるそうで、地震規模M7.0の被害想定結果は広島市、廿日市市、大竹市を中心に人的被害 死者数 約3,400人、負傷者数 約19,000人、経済被害約3,4兆円と広島県で最大の地震被害としている。

こういう背景もあり西風新都は防災の中心的な存在として位置付けて検討課題になろうかと思うが防災情報の発信基地などを視野に入れたらと思う。

石内地区連合町内会
会長 山崎 正志